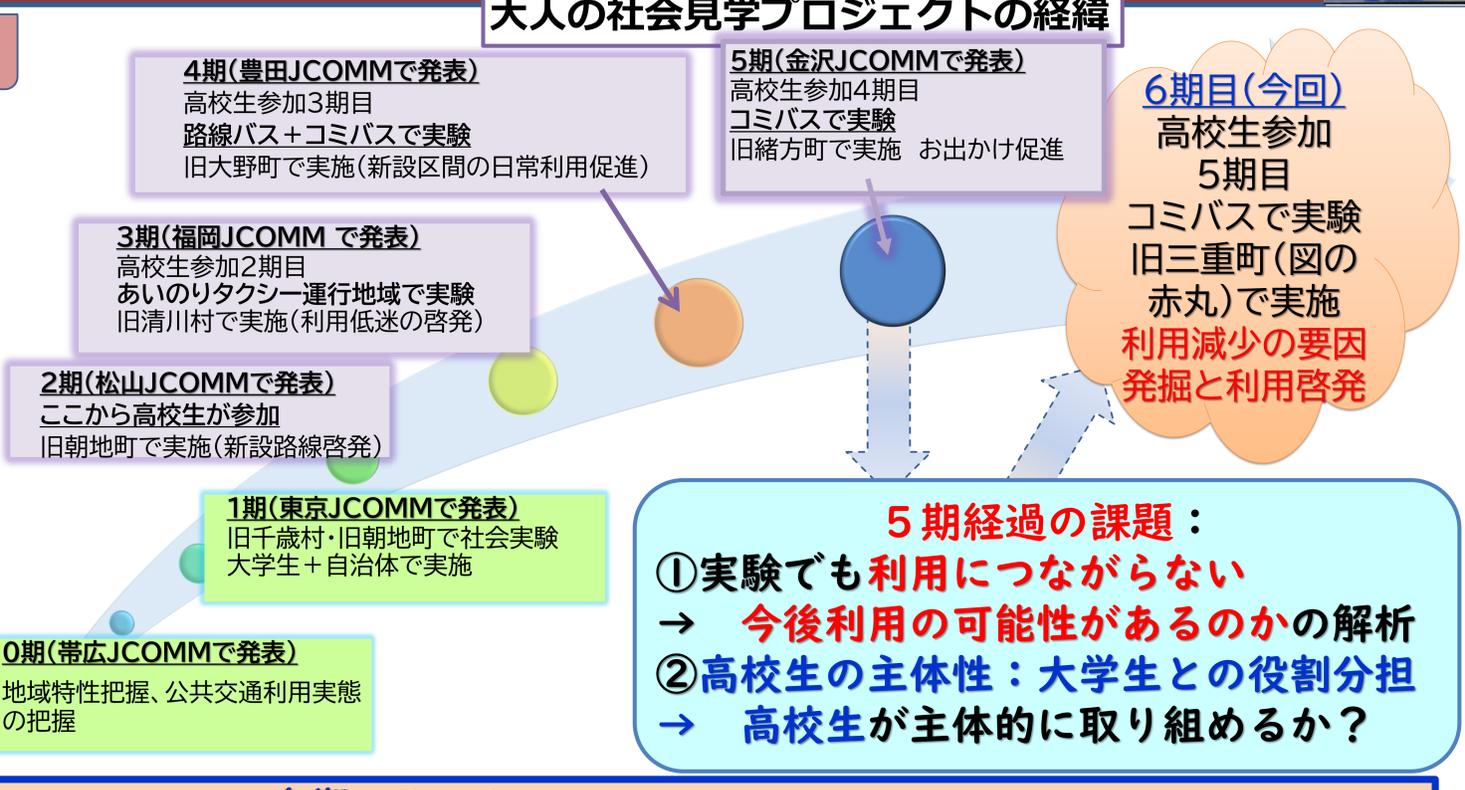
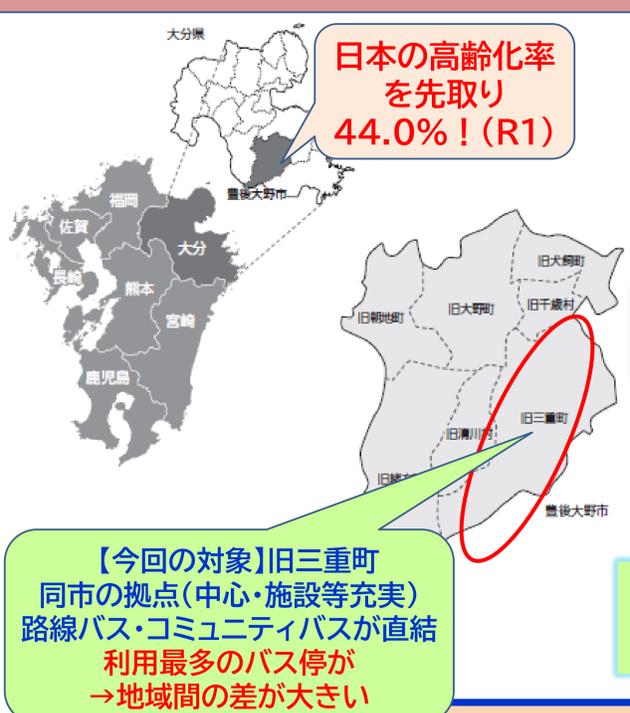


# 1. 背景と目的



**5期経過の課題：**  
 ①実験でも利用につながらない  
 → 今後利用の可能性があるのかの解析  
 ②高校生の主体性：大学生との役割分担  
 → 高校生が主体的に取り組めるか？

## 今期のミッション コミバス利用方法と利便性を享受で将来利用が増加？+高校生に主体的に取り組んでもらい地域理解

# 2. プロジェクトの内容



「バスで出かけられる」を体感 + 高校生がお出かけの楽しみづくり = イベント

利用者目線でバス体験 (案内・土地の理解)

高校生主導の企画 (食事、レク) (高齢者カフェと連携)

バスでお出かけ

では、お出かけに行きましょう

自家まで戻り、高校生と大学生のコンビで聞き取り調査 (生活実態、感想、意識などの把握)

高校生に対して事前準備＝地域理解の醸成 (大学生との合同授業、体験乗車、意識把握)

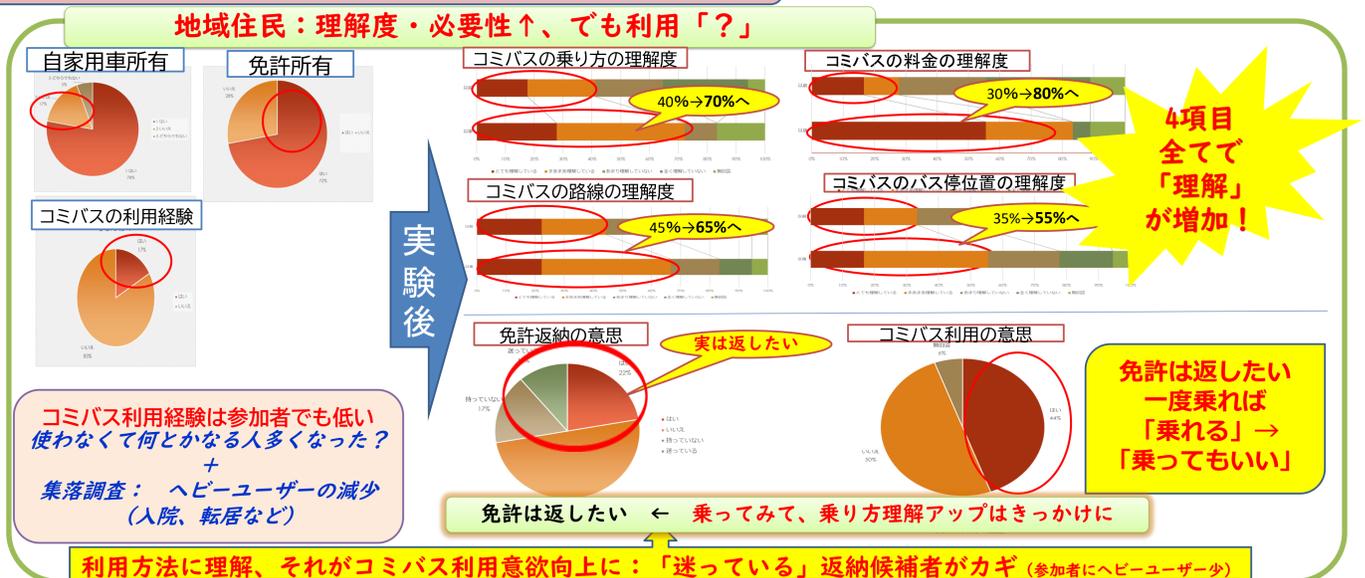
この社会実験の仮説 (ねらい)

コミュニティバスの利用方法と利便性を住民は享受？

高校生に主体的に取り組んでもらうことで地域について理解が深まる？

昨年度からの改良  
 ①事前の集落調査+バス試乗実施 = 当該路線での目的・土地勘を理解  
 ②高校生メイン+大学生サポート、型へ = 高校生が地区設定、イベント内容決定

# 3. 効果について



地域住民：理解度・必要性↑、でも利用「？」

自家用車所有 免許所有

コミュニティバスの利用経験

コミュニティバス利用経験は参加者でも低い使わなくて何とかなる人多くなった？ + 集落調査：ヘビーユーザーの減少 (入院、転居など)

利用方法に理解、それがコミュニティバス利用意欲向上に：「迷っている」返納候補者がカギ (参加者にヘビーユーザー少)

高校生の意見：地域課題の理解・意識↑

評価ポイント  
 コミュニティバスについて少しでも知ってもらえた  
 高齢者の気持ちを理解することができた  
 自分自身がコミュニティバスについて深く考えることができた  
 イベント当日にスムーズに進んでよかった  
 大学生と共同でやることで新たな気づきがあった

課題ポイント  
 準備期間が少なかった  
 今後の利用を考えて、外に出かけるべきだった  
 高校生と大学生のコンタクトがとりにくかった  
 場所選定が遅かった  
 利用見込みがある人をターゲットにするべき

地域の事情に対する理解は上がった (積極的に考えた)  
 「大人の事情」に起因する課題が多い～連携の課題～  
 初動・地域選定 (行政の制約)、連携 (到達レベル)

# 4. まとめ

**地域住民に対する効果**

イベントが利用・理解度向上のきっかけに有効 (意識変化)  
 ... 利用法、使えるということは「享受」できそう  
 「イベント」に依ることの課題：参加者はそれどまり  
 集客がないと→声かけ→来るのは「ユーザー」でなく「一見さん」  
 地域選定・事業の開始時期などに課題：「大人の事情」の制約

**高校生に対しての効果**

◎ イベントの企画・実施などを高校生主導に  
 → 地域課題への理解向上に効果あり ⇔ 大学生との連携に課題も (棲み分け方に苦労)  
 ◎ 現場に出ることで理解深度化 ⇔ 実は地元生が少ない：どこか他人事？  
 ◎ 高校生・大学生の公共交通利用体験が低い→目的意識理解や提言に課題  
 \* 大学生と高校生のレベル差：何をゴールにするかなどで迷いも

**結論**

公共交通の認知度向上の効果はあった：将来「使える」可能性の認知を引き出したことは事実 +

提案側に公共交通の理解が必要：使わないから、違う地域だから ~ 問題意識醸成が困難  
 「社会実験 (イベント)」の限界：行政の事情、地域の事情、大人の事情 → 「結果」が出にくい  
 <今後> まずは高校生・大学生の公共交通の利用促進を：自分事と考えさせる  
 → そこができてから、地域へ発展を (自分の感覚がないと、問題意識や提案が困難)